

令和4年度 第9回 沼津市中心市街地まちづくり戦略会議  
《議事概要》

開催日 : 令和4年4月25日(月)

開催時間: 開会 午後2時00分 閉会 午後4時00分

開催場所: 沼津ラクーン6階 + Web

出席者

	氏名	現職等	備考
有識者	岸井 隆幸	一般財団法人 計量計画研究所 代表理事	座長
	森本 章倫	早稲田大学 教授	
	小泉 秀樹	東京大学 教授	Web 参加
	福井 恒明	法政大学 教授	
市民	佐藤 清治	沼津市自治会連合会 (第一) 会長	
	高田 利昭	沼津市自治会連合会 (第五東) 副会長	
	土屋 豊	沼津市自治会連合会 (第五開北) 会長	
	栗田 奈穂子	沼津市都市計画審議会 委員	
商工事業者	芦川 勝年	沼津市商店街連盟 会長	
	杉山 金芳	沼津商工会議所 専務理事	
	曾根原 容子	沼津商工会議所 女性会 会長	
交通事業者	木村 誠司	東海旅客鉄道株式会社 総合企画本部 企画開発部 担当部長	代理出席
	渡辺 知行	富士急シティバス株式会社 常務取締役	代理出席
	鈴木 智善	平和タクシー株式会社 代表取締役	
行政機関等	大石 剛志	静岡県 沼津警察署 交通官	
	望月 康史	静岡県 交通基盤部 都市局 都市計画課 課長	代理出席
	熊谷 修孝	静岡県 沼津土木事務所 次長	代理出席
	南木 宏和	独立行政法人 都市再生機構 中部支社 都市再生業務部 まちづくり支援室 担当部長兼室長	
	吉澤 勇一郎	沼津市 副市長	
	関野 勇治	沼津市 まちづくり統括監	
	真野 正実	沼津市 都市計画部 部長	
	平野 明文	沼津市 沼津駅周辺整備部 部長	
	湯川 真由美	沼津市 産業振興部 部長	
	長嶋 晃令	沼津市 建設部 道路建設課 課長	代理出席
オブザーバー	角田 陽介	国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路事業調整官	Web 参加
	武田 正昭	国土交通省 中部地方整備局 建政部 都市整備課 課長	

<次 第>

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 事務局からの説明
  - (1) 前回会議における意見と対応
  - (2) パブリックコメントにおける意見と対応
  - (3) 前回会議以降の取組
  - (4) 令和4年度の取組
- 5 意見交換
- 6 閉会

<議事概要>

岸井氏           公共空間再編整備計画と都市空間デザインガイドラインについて、前回会議での意見やパブリックコメントに寄せられた意見への対応、それから今行っている社会実験や今後の取組について説明があった。これから皆さんに意見を伺うが、特に今後どのように進めて行くべきか、今行っている社会実験の反省点なども含めて意見をいただきたい。

森本氏           中心市街地の将来像を示した VR 動画について意見させていただく。今見た VR 動画は、単純に画面を上下に二分割してビフォー・アフターを見えるようにしているが、市民が関心を持って見ていただけるような動画にはなっていないと思う。“OPEN NUMAZU”というコンセプトを付けて、2～3分間の動画を楽しめるようにしたほうが良い。また、歩行者の視点、車からの視点、鳥からの視点で作成するなど、いくつかの視点で見てもらって様々な意見をもらうと良い。資料2の23ページにあるようなYouTube、SNS、ローカルメディア、デジタルサイネージを活用して、多くの市民から意見をもらうと良い。動画は直すことができるので、市民と意見交換しながら将来像を修正していくと良い。

岸井氏           沼津市は、VR動画をどのように活用しようと考えているのか。

事務局           令和3年7月に作成したVR動画では、ビフォー・アフターを示した動画だけでなく、歩行者の目線でも動画を作成し発信している。それをアップデートしたものを先ほど見ていただいた。市民の方に中期で目指すまちの姿がどのように変わっていくのかをわかりやすく発信していきたいと考えているので、歩行者の視点、車からの視点、鳥からの視点といった意見は参考になった。また、ここで初めて“OPEN NUMAZU”という概念を打ち出したので、これを動画の冒頭に入れ込むなど、市民に伝わりやすいプロモーション動画としてアップデートし発信していきたい。

岸井氏           これまではVR動画をどのように発信してきたのか。

事務局 YouTube や沼津ラクーンの屋外ビジョン、ららぽーと沼津など、多くの人の目に入るところで発信している。また、市の SNS で動画を発信し PR した。続けて発信していくことが大事だと考えているので、引き続き発信していきたい。

岸井氏 今、YouTube は視聴することができるか。

— 市ホームページにて YouTube を視聴 —

事務局 市のホームページで YouTube を発信したところ、中心市街地まちづくり戦略のページ閲覧数が増えた。動画をきっかけに市民が興味を抱いたと考えられるので、引き続き発信していきたい。

岸井氏 この動画で上手く伝わるかどうか、委員の意見を聞いたほうが良いかもしれない。

森本氏 シティセールスという点ではもっと質の高いものをつくっている市町もあるので、ぜひ参考にさせていただきたい。せっかく“OPEN NUMAZU”というコンセプトをつくったのだから、この取組がなぜ必要なかがわかるような内容で3分ぐらいにまとめれば、市民だけでなく学校など教育の場でも活用でき、皆さんが考えるきっかけになると思う。

岸井氏 この動画には、まだ“OPEN NUMAZU”というコンセプトは入っていないのか。

事務局 今 YouTube で発信している動画は、昨年度作成したものなので、まだ“OPEN NUMAZU”というコンセプトは入っていない。これから新たに加えて発信していきたい。

岸井氏 今やっている社会実験の状況なども入れながら作ると良いかもしれない。この動画を使用したい場合は、どこに連絡したらよいか。

事務局 まちづくり政策課に連絡いただきたい。発信に協力していただければありがたい。

岸井氏 まちづくり政策課に連絡すればデータがもらえるとのことなので、委員の皆さんも使うチャンスがあれば、発信をお願いしたい。

福井氏 “OPEN NUMAZU”の SNS を見ると丁寧に発信しているのはわかるが、市民の反応を広げていくようなことはしていないのか。反応を見るということがオンラインで広報する上では重要である。

事務局 インスタグラムでの発信が多いと思われ、#OPENNUMAZU で検索すると発信してくれた人が出てくるので、どのような人たちが発信してくれているのかは確認したいと思う。

福井氏 交通への影響について説明してもらいたい。

事務局 歩行者・自動車の交通量調査を行っている。3月に社会実験前の平日休日の交通量、4月に社会実験中の平日休日の交通量を、あまねガード南交差点と沼津駅南口交差点の2箇所で開催している。また、会場では、どのような滞留行動があるかを朝昼夕に調査し、併せてアンケート調査も実施している。

- 福井氏 出店者の選定とその方たちの反応について説明してもらいたい。
- 事務局 出店者については、まずはイーラ de 前ということでイーラ de に声をかけ、そのほか、日常を過ごすという観点でふさわしいサービスを提供する店に協力していただいた。あくまでイベントではなく日常を過ごすために付随するものとして協力していただいている。出店者は、想定より売り上げが良く、売り切れて早めに閉めてしまうこともある。社会実験終了後に売り上げ状況も含めて意見を聴きたいと考えている。
- 栗田氏 パブリックコメントを実施したら 1 名からの意見しかなかったということで、市民は関心がないという感じを受けた。なぜかと考えた時に、中期という 5 年～15 年後のイメージが湧かないからだと思った。VR 動画で最終的なまちの姿を観ることができるかもしれないが、それが 15 年後だと言われると実感が湧かない。将来のまちの姿を見せることも大切だが、もう少し短期的なスケジュールを出してもらい、市民にイメージを持ってもらうことが大事だと思う。
- 岸井氏 まず、パブリックコメントで一人しか意見がなかったという点について、どのように捉えているか。
- 事務局 パブリックコメントについては、様々な機会を通じて周知してきた。ボリュームが多い計画であったことから、わかりやすいように概要版を作成し実施したが、結果的に 1 名であった。
- 岸井氏 もう少し具体的なスケジュールを示せないかという点については、どう考えるか。
- 事務局 スケジュールについては、参考資料 1 の概要版で 5～15 年後のスケジュールを PHASE 1～PHASE 3 で示しているが、PHASE 1 は何年、PHASE 2 は何年と示すことができればイメージが伝わりやすいと思うので、示すことができるか考えて行きたい。
- 小泉氏 計画に市民を巻き込む点を充実させたことは評価できる。一方で、具体的にそれをどうやっていくのかという方法論が求められている。沼津市は、協働まちづくりということで、様々な市民活動に助成してきた実績があって、空間のリノベーションなども推進している。また、まちづくりファンドを MINTO 機構の協力を得て実施し、様々な市民の生活の質を高めるような取組を行っている。その中には中心市街地に興味がある団体もある。商店街など地域に根を張った団体との連携は必須だが、社会実験をやる中では、企画する段階から意見を出していただき、まちづくり推進係が関わっている人たちなどと上手く連携していくと取組が市民に伝わるし、前向きに取り組んでくれる人達が多く集まってくれると思う。
- 岸井氏 先ほどは YouTube 等を使って広く発信していくという話であったが、小泉先生の話は、これまでも活動してきた方々にもしっかりと伝えていくべきではないかという意見であった。この点について、市では何か取組をしているか。
- 事務局 今回の社会実験は、まちなかにこのような可能性があるということを見せるために行った。意見にあったような、企画する段階での市民団体の参画は薄かったと思う。企画から運営まで

一緒にやっっていく体制を作っていくことが、継続的に行っていく上でも大事だと考えるので、今年度以降進めて行きたい。

岸井氏 市役所の中でも横の連携を強めて、まちづくりに思いを持っている団体に必ず伝わるようお願いしたい。

南木氏 今回の社会実験を共催という形で実施している。会場で通行者を見ていると、歩いている人だけでなく、車いすや自転車など様々な通行があったため、ユニバーサルデザインや自転車の誘導を考えなければいけないと思った。また、初めは会場で買わないと座ってはいけないとの誤解があったようだが、徐々に自由に滞在している人が増えていった。今後は、今回のような大掛かりで沼津市が主体で行うような社会実験ではなく、もう少し簡易でデザインガイドラインにあるような、事業者と手を取り合って官民連携で行う取組を考えたい。

岸井氏 空間の利活用をもう少し簡易にできる仕組みを考えて、多くの方が提案できるようになると、様々なことが動き出していくのではないかと思うので、ぜひ検討していただきたい。

今回の社会実験で、ハンディキャップを持っている人や自転車に対しては、どのような配慮を行ったのか。

事務局 歩道と車道を活用したということで、間に縁石があり、これを除去することはできなかった。スロープを設置するにしても歩道空間を広く占拠してしまうので設置できなかった。やむなく、縁石を生かしながらやることになり、車いす等は横断歩道側の路肩から入るような動線にした。この点では、ご不便をおかけする形となったが、将来的に整備する際は考慮したい。

自転車については、南側に通行してもらおう空間を 50 センチの幅で用意したが、元々矢羽根でもっと広い幅員があったため、危ないじゃないかという意見があった。将来的には自転車通行帯の整備も考えているので、参考にしたいと思う。

岸井氏 交通関係について、警察に何か問い合わせがあったか。

大石氏 交通に関しては市と協議してきたので、特に問題は起こっていないが、プレスリリースした際には、「こんなところでやっていいのか」というような問い合わせが数件あり、取組を理解してもらえていない人もいるのかなと感じた。

岸井氏 従来は車のための空間だったので、どうして変えるんだという不満もあったのかなと思う。道路管理者に何か問い合わせはあったか。

熊谷氏 県道の道路管理者として意見させていただくが、今回、道路空間を利活用する新たな取組ということで、割と評判がいいと話を聞いている。道路空間の新たな利活用は全国的にも注目されているので、進めて行くと良い。

岸井氏 歩行者向けの空間を充実させていくというのは、世の中の流れとしては追い風が吹いている。沼津でもそれができることを喜んでいる人もいるということだと思う。

これからも社会実験を実施していく際には、その都度、多くの方の意見を聞いて、チェック

し、修正しながら、柔軟に対応していくことが重要である。社会実験とはいえ問題のないよう進めていきたいと思う。

武田氏 交通のことが気になっている。これから人優先の空間を整備していく中で、車線数を減少する実験をやっていくと思うが、当初の予測と結果が見込み通りだったのかをまとめてもらえると他の参考にもなると思うのでお願いしたい。

岸井氏 今回の社会実験に対して、市民の声はいくつか紹介があったが、市の担当者としてはどう見ているか。

事務局 交通に関しては、まだ調査を行っているところだが、見ている限りでは交通渋滞が生じている様子はない。調査結果も問題なく出てくるのではないかと思っている。空間利活用については、イベントではないので、使ってくれる人が集まるか心配ではあったが、日が進むに連れて、子ども連れのお母さんや学校帰りの学生さんなど、これまでまちなかでは見ることができなかった景色が徐々に現れてきたので、非常に良い結果が出るのではないかと考えている。

芦川氏 商店街では三枚橋錦町線のあまねガード南交差点西側が開通したことが大きな出来事で、開通した途端になぜ社会実験でその先の道を狭めるのかという声が多かった。商店街としては、これまでの流れや、こういう時代なのだろうということは認識しているが、何のためにやっている社会実験なのかを説明するのが難しいと感じている。今は行政主体でやっているが、我々としては、これをどう自分たちの地域でできるのかを考えなければならない。今回の社会実験が、それを考えるきっかけになったことは感謝したい。

杉山氏 車から人中心へということを考えて、歩くところは全てバリアフリーなど、様々な人が安心して歩けるような空間が実現できれば良いと思う。また、生活の一部として空間を使う社会実験は良いが、沼津へ来る人に向けたコンセプトを持って社会実験をやらないとだめだと思う。沼津港に160万人/年の来訪があるが、海産物を目当てにして来る。今回のように空間だけを用意するのではなく、海をイメージするようにして、沼津に来たくなるような仕掛けをしないと人の空間にはならない。例えば、JRに協力してもらい鉄道博物館を造るとか、何か仕掛けを考えないといけない。

曽根原氏 仕事の都合でイーラ de 前を通るので、何度か座ってみようと思いたが、一人で座るのは恥ずかしかった。きっと同じように思っている人もたくさんいると思う。社員を誘ったが、みんなに見られるのが嫌だということで断られてしまった。まだ慣れていないからだと思うが、午後になると風も出てきて食べ物にゴミが入るし、建物の中で食べようという話になってしまった。なぜこうなってしまったのかと考えると、きっと社会実験の意図がみんなに伝わっていないからで、突然あの空間が現れたと思っている人が多いからだと思う。市が何かイベントをやっていると思われる。何のための社会実験なのか、しっかり告知できていれば、行ってみようという気持ちになったと思う。

高田氏 社会実験は定期的にやっていくことで効果が出てくるものだと思う。それから、告知ができ

ていないという点は問題だと思う。市もいろいろ情報発信をしているが、最大の効果を生むのは地域の口コミだと思う。そのために私たちは、VR 動画を利用させてもらいながら、地域で 15 年後の姿を見せて、様々な誤解を解いていければと思う。VR 動画は上手く使えるようにバージョンアップしてもらいたい。それから、よく 15 年後は生きていないと言う人もいるが、そこまでのプロセスでイメージが見えてくるものもあるので、その説明もしっかりしていくべきだと思う。

森本氏 皆さんが言うように、社会実験では事前の告知が非常に大事である。しかし、一番初めはどう告知しても知らなかったという人は多く出てくるので、一番いいのはやってみること。何をやっているのだろうという気付きが生まれるので、今回は第一歩と位置付けて、次の二歩目、三歩目を継続していくことが大事である。1 年後ここでやって、2 年後ここでやって、そして常設するというように、皆で共有できるようなロードマップを作ると良い。

なお、パンフレットや現地を見ても何をやっているか、ややわかりづらかった。私が新宿でやった時は、ストリートシートというものを作った。道に椅子を置くということで、ストリートシートと名付けた。例えば、「まちへ出て道でくつろごう」とどこかに記載して、会場で体験できることを理解できるような工夫をすると良いと思う。

いずれにしても、今回は第一歩として高く評価している。

福井氏 私も初めて屋外の社会実験で設置された椅子に座った時は人目が気になって恥ずかしかった。屋外で過ごすことに慣れてくるのが大事なので、社会実験を定期的にやってもらいたい。終わった段階で次回のスケジュールが言えるようにすると良いと思う。

角田氏 VR 動画を見て、こんなに人が歩くのかなと思った。ただ、社会実験の様子を見ると確かに人の数はいるようだった。たぶん、歩いている人が多いと人が多く見えるということだと思うが、滞留している人が多くなると思うので、絵面は考え直したほうが良い。

令和 4 年度の取組について、協議・調整に時間が掛かって現場はあまり動いていないという形ではなく、現場で常に何かが起こっているようになると、地元の理解も進むし、商店街の人も頑張ろうという気持ちになり、良い取組になると思う。

望月氏 まちづくりは行政だけでは絶対にできないので、いかに市民の方々と一緒になってやっていくのが鍵だと思う。社会実験は、やってみて初めてわかることがあるので、まずはやってみるということが、市民の理解や一緒になってやっていくメンバーを増やす中でも重要だと思う。

ポストコロナということで、働き方や生活様式など社会が大きく変わってきている。新しい生活様式を把握する上でも、社会実験をやりながら市民の意見を聞くことが重要だと考える。社会が変わっていくことをチャンスと捉えて、沼津市と皆さんが一緒になって取り組んでいただきたいと思います。

岸井氏 ぜひ、国や県の支援もお願いしたい。

意見が出尽くしたようなので、私からも感想を言いたいと思う。社会実験のような空間に欲しいのは、花と緑と Wi-Fi と電源である。座りにくいのは真っ新に見えてしまうからで、ちょっとした花や緑があるだけで良い。でも、これをやるとお金が掛かるので、協力してもらうことがとても大事である。名前を出してでもいいから、造園などをやっている方に協力してもらって用意する、また、通信キャリアと相談して Wi-Fi を設置するなど、少しずつ環境を整えていくことが、次の段階では求められるのではないかと思う。今回は第一歩ということで、トライアルとしてやって、交通の面では影響なくやれそうだといいところまでは来ている。これから、心地よい空間にしていくために、ステップアップしていく必要がある。ぜひ多くの人に使用していただけるように、今日出た意見や PR なども含めて、次は準備していただければと思う。引き続き、関係者の皆様のご協力をお願いしたい。

以上